

ベトナムの農家を支えたい！

岩手県、狭小農地の稲作技術を用いた高品質米の生産・流通を目指す

国際協力機構（JICA）は11月14日、「中小企業連携促進基礎調査」において株式会社西部開発農産（代表取締役会長 照井耕一）が提案する「高品質米のバリューチェーン構築事業調査（中小企業連携促進）」（ベトナム国）を採択しました。

ベトナム国では国家開発政策にて、農業の近代化や、農産物の生産性及び質の向上が掲げられており、米の輸出にも力を入れています。依然農業従事者の所得は低く、米の栽培技術も低いことが課題となっています。



岩手県での稲作技術を用い、「安全安心」「環境にやさしい」「美味しい」高品質なお米づくりを目指します。

ベトナム田園風景

提案企業である株式会社西部開発農産は、岩手県北上市内外の狭小な農地を集約し農業機械をフル活用することで収益性の高い大規模栽培を行ってきた技術やノウハウを、同様の環境であるベトナム国紅河デルタ地域の狭小農地にて活用し、大規模農業によって生産される高品質米を普及させることで、現地農家の収益性を高め、環境改善にも貢献することを目指しています。

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業連携促進基礎調査」として実施されます。本スキームは、優れた製品や技術力を有する中小企業が途上国に進出することによる開発課題解決の可能性及びODA事業との連携可能性を検討するためのもので、検討に必要な基礎情報の収集と海外展開事業計画の策定を目的としています。2014年度は本年7月に公示を行い、61件の応募のうち10件が採択されました。今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。